

## 第48回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時 令和元年9月5日(木) 13:00~14:30

2. 場所 内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井部会長代理、石田委員、上杉委員、下村委員、竝木委員、松尾委員、渡邊委員

(2) 事務局(宇宙開発戦略推進事務局)

松尾局長、行松審議官、中里参事官、星野参事官、吉田参事官、鈴木参事官、森参事官

(3) 関係省庁等

内閣官国家安全保障局参事官	茂木 陽
総務省国際戦略局宇宙通信政策課長	森下 信
外務省総合外交政策局宇宙・サイバー政策室首席事務官	大沼 寛
経済産業省製造産業局宇宙産業室長	浅井 洋介
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課企画官	原田 大地
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課宇宙利用推進室長	倉田 佳奈江
防衛省防衛政策局戦略企画課グローバル戦略企画官	坪郷 聡
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構調査国際部長	庄司 義和

4. 議事要旨

(1) 概算要求の状況について

資料1-1から1-4に基づく事務局、文部科学省、総務省、経済産業省による説明のあと、次のような議論が行われた。

○将来の地球低軌道の活動を民間主導で進めていくためには、民間活動を喚起・刺激するように政府関連予算を工夫していく必要があるのではないか。

(2) スペースデブリに関する取組状況について

資料2に基づく事務局による説明が行われた。

(3) APRSAFに向けた対応について

資料3に基づく文部科学省による説明が行われた。

#### (4) 国際宇宙探査について

資料4-1から資料4-3に基づく文部科学省による説明が行われた。続いて、関係省庁から、国際協力による月探査計画への日本の参加について、意見が述べられた。

その後、次のような議論が行われた。

- 月探査を進めるに当たり、これまでの知見のあるアカデミアと民間企業をもっと結びつける仕組みを考えてはどうか。
- 費用対効果をしっかり精査すべきではないか。
- 日本がリーダーシップを取れる形で参画すべきではないか。
- ゲートウェイ関連予算はこれまでの宇宙関連予算とは別枠で確保されるべきではないか。
- 月の水氷資源を探査する意義があるのか、月や火星における放射線問題をどうするのか等、今後議論を深めていかなければならない点があるのではないか。

以上